



中国刊行の日本語教科書における「A っB り」型オ ノマトペの分析 : 日本刊行の日本語教科書との比較

魏, 婧云

(Citation)

統計数理研究所共同研究リポート, 481:26-38

(Issue Date)

2025-03-25

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100493757>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100493757>



中国刊行の日本語教科書における「A っ B り」型オノマトペの分析

—日本刊行の日本語教科書との比較—

魏 靖云(神戸大学・大学院生)

giseiunn.27@gmail.com

An Analysis of the “A っ B り” Type of Onomatopoeia in Japanese Language Textbooks Published in China

—A Comparison with Textbooks Published in Japan—

WEI, Jingyun (Kobe University, Graduate Student)

概要

オノマトペは日本語の重要な部分であるが、中国語母語の日本語学習者(CLJ)はオノマトペの使用に多くの誤用をおかす。この原因の一つとして考えられるのが、中国刊行の日本語教科書(CHT)におけるオノマトペの扱いの不十分さである。この点を検証するため、本論文は、「ABAB」型に次いで高頻度である「A っ B り」型オノマトペに注目し、CHT と、日本刊行の日本語教科書(JPT)における出現状況を比較した。その結果、全体出現量・巻別出現量・「本文」セクション内出現量・高頻度オノマトペカバー率のすべての点で、CHT は JPT と比べて不足はなかった。ただし、CHT にも、今後収録すべきオノマトペが存在することが示唆された。これらの知見は、中国の教育現場における今後の日本語「A っ B り」型オノマトペの指導に対する一助となるものと考えられる。

キーワード

「A っ B り」型オノマトペ、コーパス、日本語教育

1. はじめに

日本語には様々な語彙・文法があるが、外国人日本語学習者の立場で、最も習得に困難を覚えるものの一つがオノマトペである。オノマトペは、日本語に固有のものであり、多くの言語において、相当する語彙形式を持たない。また、母語話者は、音韻に関する直感的判断でその意味を予測することが可能であるが、学習者は同様の感覚がないため、その意味用法の理解が困難となる。

三上(2007)によれば、日本語オノマトペには、反復形の「ABAB」型(うろうろ、にこにこ)、「A っ B り」型(はっきり、びっくり)、「A っと」型(ざっと、ぐっと)などの形があるとされるが、本研究は、このうち、研究が相対的に手薄な「A っ B り」型オノマトペに対象を絞り、日本語教科書における扱いを計量的に調査することを目的とする。

「A っ B り」型オノマトペは、現代日本語において、ごく一般的に使用されるものであるが、学習

者は、その用法を必ずしも正確に理解していないようである。『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(I-JAS)には、中国語母語の日本語学習者(Chinese Learners of Japanese:以下 CLJ)による以下のような誤用例が見つかる。

- (1) 家の犬が飛んで*びくりしました。(SW1-CCM32.J-CAT 合計得点:223 点)
- (2) 犬はバスケットの中から*どっさり飛び出して、二人ともびくりしました。(SW1-CCM35.J-CAT 合計得点:320 点)

世界の日本語学習者の中で、CLJ は、漢語の知識を共有していることから、相対的に見て、日本語を得意とする者が多い。にもかかわらず、「A っ B り」型オノマトペに関して誤用が数多く見られる背景は、中国における日本語教育の影響、とくに、日本語教科書の影響が想定される。中国の日本語教育で広く使われている中国国内刊行の日本語教科書(以下:CHT)において、「A っ B り」型オノマトペの出現頻度が不十分であるため、CLJ が当該オノマトペの使用実例に十分触れられていない可能性がある。

この点を実証的に調査するため、本研究では 2 種の CHT と、日本国内で刊行された 2 種の日本語教科書(以下:JPT)における「A っ B り」型オノマトペの出現状況を計量的に分析する。

2. 先行研究

オノマトペに関する研究のうち、(1)重要オノマトペ語彙に関する研究、(2)「A っ B り」型オノマトペに特化した研究、(3)教科書におけるオノマトペの出現状況の研究、の 3 種を取り上げ、以下のように概観する。

2.1 重要オノマトペ語彙に関する研究

まず、三上(2007)は、日本語教育、特に初級段階の語彙指導においては、オノマトペの使用頻度や重要性に十分に指導されていないと指摘した。また、日常生活で多用されるオノマトペを焦点として、初級段階から中級段階の学習者がオノマトペ表現を習得できるよう、日本語教育のための基本オノマトペ語彙を選定し、その指導案を提示した。選定された 70 語のうち、「A っ B り」型オノマトペは 18 語を占める。

次に、獅々見(2016)は、『BTS による多言語話し言葉コーパス』と『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』を用いて頻度調査を行い、母語話者による親密度調査の結果と組み合わせることで、252 語の基本オノマトペを選定した。このうち、「A っ B り」型オノマトペは 31 語を占める。

さらに、黄(2021)は、7 種のオノマトペ辞書に収録されているすべてのオノマトペのうち、「日本語教育語彙表」(日本語学習辞書支援グループ 2015)に掲載されているものを基本オノマトペとして 335 語を選定した。このうち、選定された 335 語の中で、「A っ B り」型オノマトペは 50 語を占める。

2.2 「A っ B り」型オノマトペに特化した研究

まず、守山(2002)は、「A っ B り」型オノマトペ(守山は「CVQCV リ」型オノマトペと呼ぶ)の特徴について検討した。調査の結果、「A っ B り」型オノマトペは、2 拍目に促音「っ」、4 拍目に「り」を持つ構造を有し、多くの場合、対応する「ABAB リ」型や「ABAB・ABAB」型の語が存在することが明らかになった。また、「A っ B り」型オノマトペの多くは擬態語であり、状態や動作の様子を表すものが中心である。さらに、日本語母語話者を対象としたアンケート調査により、「A っ B り」型オノマトペの中にはオノマトペとして認識されにくいものが存在し、その認識度には対応する語の有無が大きく影響を与えていることが示された。特に、対応する語がないものを一般語彙として認識される傾向が強く、例えば「そっくり」「しっかり」「がっかり」などはオノマトペとしてではなく、一般語として扱われることが多かった。このような分析を踏まえ、日本語教育において「A っ B り」型オノマトペを指導する際には、日本語話者の持つ音感覚を学習者に理解させる必要があることを指摘し、オノマトペとしての認識が曖昧な語については、一般語彙として個別に導入すべきであると提言した。

次に、陳(2015)は、「こつてり」「あつさり」「しつとり」「さっぱり」「すつきり」という 5 つの「A っ B り」型オノマトペの意味を分析・記述することを通じて、「A っ B り」型オノマトペの意味拡張について検討した。結果としては、「A っ B り」型オノマトペの意味拡張は、五感の相互関係に基づくネットワーク構造を持ち、特に「味覚」「触覚」「嗅覚」間での意味転用が顕著であることが明らかになった。さらに、「オノマトペ+スル」という動詞の用法においても、一般語彙とは異なる特徴が確認され、オノマトペの多義性と意味拡張の認知的基盤について新たな視点を提供した。

2.3 教科書におけるオノマトペの出現状況の研究

まず、岡谷(2015)は、日本小学校 1 年生から 6 年生の国語教科書を対象として、オノマトペの出現頻度とその共起動詞を調査した。結果として、オノマトペは 1 年生から 5 年生まで線形的に上昇し、6 年生でやや減少することがわかった。これをふまえ、「初級から学習する基本オノマトペリスト(92 語)」を提案した。トップ 10 語の中には、5 種の「A っ B り」型オノマトペが含まれていた(「はつきり」「しっかり」「ゆつくり」「びつくり」「すつきり」)。なお、本研究は、非母語話者も、母語話者と同様に、日本語学習の開始時期である初級段階からオノマトペ習得すべきであると指摘している。

次に、王ほか(2020)は、中国の大学でよく使用される 5 種類の日本語教科書と、日本語能力試験(JLPT)の N1～N3 の再現問題集(9 年分)を用い、オノマトペの収録状況を比較した。教科書におけるオノマトペの収録数は全体的に少なく、巻の間では不均衡な分布が見られた。教科書に記載されたオノマトペに関する説明は限定的であり、練習問題や文脈を活用した学習の機会が不足しているということも指摘した。また、教科書と試験の両方で高頻度として確認されたオノマトペは「うっかり」「がっかり」「しっかり」「すつきり」「そっくり」「のんびり」「はつきり」「びつたり」「ゆつくり」の 9 語のみであり、全体的に収録語彙に大きな差があった。オノマトペに関しては、中国での現行の大部分の教科書は新日本語能力試験のオノマトペに関する試験要求に対応できないと指摘した。

以上で、(1)重要オノマトペ語彙に関する研究、(2)「A っ B り」型オノマトペに特化した研究、(3)教科書におけるオノマトペの出現状況の研究、の 3 種に区分して、先行研究を概観した。過去の

研究はいずれも価値ある知見を示しているが、「A っ B り」型オノマトペについて、中日の教科書を比較した研究はほとんど存在しない。

3. リサーチデザインと手法

3.1 研究目的と RQ

本研究は、CLJ による「A っ B り」型オノマトペの誤用が多い背景として、CHT に問題があるのではないかという仮説のもと、CHT における「A っ B り」型オノマトペの出現状況を、JPT と比較する。

分析にあたっては、(1)全体出現量、(2)巻別出現量、(3)「本文」セクション内出現量、(4)コーパス高頻度語カバー率、(5)不足語彙の 5 つの観点で調査を行う。複数巻で構成される教科書の全体においても、各巻においても、また、教科書内で特に重要な「本文」セクションにおいても、「A っ B り」型オノマトペが十分に提示され、かつ、現代日本語における高頻度オノマトペの大部分が提示され、不足している語彙がないならば、良い教科書であると結論することができるだろう。

事前仮説として、CLJ の「A っ B り」型オノマトペの定着の低さを踏まえると、CHT は、以上の 5 点のすべてにおいて、JPT に比べて、不足があると考えられる。これらの点の検証を目的として、以下の 5 つの研究設問(RQ)を設定する。

JPT と比較した場合、CHT は

RQ1 教科書全体において「A っ B り」型オノマトペの出現量に不足はないか？

RQ2 教科書の各巻において「A っ B り」型オノマトペの出現量に不足はないか？

RQ3 教科書の「本文」セクション内において「A っ B り」型オノマトペの出現量に不足はないか？

RQ4 高頻度「A っ B り」型オノマトペに対するカバー率において不足はないか？

RQ5 教科書に掲載される「A っ B り」型オノマトペの種類に不足はないか？

3.2 データ

CHT については、中国の大学で多く使用されている『日語総合教程』と『総合日語』の 2 種をサンプルに取り上げる。JPT については、いわゆる文型重視の方針を取り、世界の日本語教育で長らく定番教科書として使われてきた『みんなの日本語』と、コミュニケーションや言語使用といった新しい基軸を打ち出し、最近、使用が広がっている『まるごと日本のことばと文化』をサンプルに取り上げる。

表 1

調査した教科書の概要

	『日語総合教程』	『総合日語』	『みんな』	『まるごと』
著者	譚晶華	彭広陸	鶴尾能子 石沢弘子	前田俊秀

出版年	2015 年	2015 年	1998 年	2015 年
出版社	上海外国語教育出版社	北京大学出版社	スリーエーネットワーク	三修社
巻数	4 巻/8 巻	4 巻/4 巻	4 巻/4 巻	4 巻/9 巻
調査対象巻レベル	0・B1	0・B1	0・B1	0・B1
調査対象巻単元数	64	65	73	36
調査対象巻頁数	1140	1575	948	930
標準的単元構成	本文・会話文・新出単語と語句・文法と文型の学習・練習・コラム	会話・新出単語・解説(音声・文法・表現)・練習用単語・練習	文型・例文・会話・練習 A,B,C・問題	聞くタスク・会話・長く話すタスク・読むタスク・書くタスク

3.3 手法

RQ1 については、CHT 平均、JPT 平均、CHT の 2 種、JPT の 2 種の各々につき、出現した「A っ B り」型オノマトペを手作業で抽出し、総トークン数を総ページ数で割ることで、1 ページあたりのトークン数を調査する。RQ2 については、巻別に同様の手法でトークン数を調べる。RQ3 については、教科書を「本文」「会話」「練習」「そのほか」という 4 セクションに分けた上で、最も重要な「本文」セクションに出現する「A っ B り」型オノマトペのトークン数を調べる。

RQ4 と RQ5 では、高頻度「A っ B り」型オノマトペとの比較を行う。この目的のため、研究の開始に先立ち、3 種の高頻度語彙リストを作成した。1 つ目は、書き言葉高頻度「A っ B り」型オノマトペリストで、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)の上位 50 種を取った。2 つ目は、話し言葉高頻度「A っ B り」型オノマトペリストで、『日本語日常会話コーパス』(CEJC)の上位 50 種を取った。3 つ目は、書き言葉・話し言葉を統合した高頻度「A っ B り」型オノマトペリストで、前述の手法で選ばれた頻度を調整頻度に変換して加重平均値を取り、平均頻度上位 50 種を取った。選定された語彙は以下の通りである。

表 2

書き言葉における高頻度「A っ B り」型オノマトペ

順位	語	順位	語	順位	語	順位	語	順位	語
1	はっきり	11	あっさり	21	ひっそり	31	すっぽり	41	べったり
2	しっかり	12	ゆったり	22	ちょっぴり	32	しっくり	42	どっぷり
3	ゆっくり	13	そっくり	23	くっきり	33	ばったり	43	めっきり
4	びっくり	14	こっそり	24	ばっちり	34	がっくり	44	ねっとり
5	すっかり	15	きっちり	25	うっとり	35	てっきり	45	こっそり
6	たっぷり	16	がっかり	26	ぐったり	36	まったり	46	どっさり

7	すっきり	17	にっこり	27	びっしり	37	ほっそり	47	がつつり
8	さっぱり	18	うっかり	28	ぎっしり	38	がっしり	48	ひよっこり
9	ぴったり	19	きっぱり	29	がちり	39	どっしり	49	びっしょり
10	じっくり	20	しっとり	30	ぐっすり	40	ぽっかり	50	おっとり

表 3

話し言葉における高頻度「A っ B り」型オノマトペ

順位	語	順位	語	順位	語	順位	語	順位	語
1	びっくり	11	そっくり	21	うっかり	31	さっくり	41	どっしり
2	ゆっくり	12	きっちり	22	ゆったり	32	まったり	42	どっぷり
3	しっかり	13	ぱっちり	23	しっとり	33	おっとり	43	ぱったり
4	はっきり	14	あっさり	24	しっくり	34	がちり	44	びっしょり
5	ざっくり	15	ぴったり	25	にっこり	35	がっぽり	45	びっしり
6	すっきり	16	たっぷり	26	ぎっしり	36	すっぽり	46	ぴっちり
7	がつつり	17	がっかり	27	じっくり	37	びっちり	47	ほっそり
8	すっかり	18	こっそり	28	ばっさり	38	ほっこり	48	ぽっちゃり
9	もったり	19	てっきり	29	べったり	39	かっちり	49	めっきり
10	さっぱり	20	ぐったり	30	ごっそり	40	げっそり	50	もっそり

表 4

書き言葉・話し言葉を統合した高頻度「A っ B り」型オノマトペ

順位	語	順位	語	順位	語	順位	語	順位	語
1	はっきり	11	じっくり	21	ぱっちり	31	がっくり	41	おっとり
2	しっかり	12	あっさり	22	うっとり	32	まったり	42	ぽっちゃり
3	ゆっくり	13	ゆったり	23	ぐったり	33	ほっそり	43	さっくり
4	びっくり	14	こっそり	24	びっしり	34	どっしり	44	ばっさり
5	すっかり	15	きっちり	25	ぎっしり	35	べったり	45	きっかり
6	たっぷり	16	がっかり	26	がちり	36	どっぷり	46	ごっそり
7	ぴったり	17	にっこり	27	すっぽり	37	ざっくり	47	もっちり
8	すっきり	18	うっかり	28	しっくり	38	がつつり	48	かっちり
9	さっぱり	19	きっぱり	29	ぱったり	39	めっきり	49	ほっこり
10	そっくり	20	しっとり	30	てっきり	40	びっしょり	50	げっそり

RQ4 では、書き言葉リスト、話し言葉リスト、統合リストの 3 種と照合を行う。RQ5 では、統合リストのみ照合を行う。

4. 結果と考察

4.1 RQ1 全体出現量の比較

選定した 4 種類 16 巻の教科書に含まれる「A っ B り」型オノマトペのトークン数を比較したところ、以下の結果を得た。

表 5

中日教科書における「A っ B り」型オノマトペ全体の出現量

	1 ページ当たりのトークン数
CHT 平均	0.106
JPT 平均	0.073
CHT 『日語総合教程』	0.132
CHT 『総合日語』	0.081
JPT 『みんな』	0.077
JPT 『まるごと』	0.069

ここでわかることを 2 点にまとめたい。1 点目は、CHT 平均、JPT 平均を見た場合、CHT 平均が JPT 平均を上回っているように見えることである。このことは、事前仮説に反して、CHT における「A っ B り」型オノマトペの提示量は JPT より不足しているとは言えないことを示す。中国国内で学ぶ CLJ は、代表的な日本語教科書を使用する学習者と比べても、教科書で触れている「A っ B り」型オノマトペの量に遜色のないことが確認された。

2 点目は、教科書の種類別で見た場合、CHT は種類による差が相対的に大きく、『日語総合教程』>『総合日語』という関係が見られた。ただし、少ない側の『総合日語』であっても、トークン数は JPT より多いことが確認された。これに対し、JPT は、あえて言えば『みんな』>『まるごと』となっているものの、種類による差は非常に小さいことが示された。JPT の編集方針の差はオノマトペの提示量には大きな影響を与えていないようである。

4.2 RQ2 巻別出現量の比較

以上で、4 巻全体をまとめた場合、「A っ B り」型オノマトペの提示量について、CHT の不足は見られないことが確認された。では、巻別に見ても同じ結果が得られるのであろうか。巻を分け、トークン数に絞って、1 ページ当たりの出現量を調べたところ、以下の結果を得た。

表 6

中日教科書における「A っ B り」型オノマトペの巻別出現量

	教科書の巻別 1 ページ当たりのトークン数			
	Vol.1	Vol.2	Vol.3	Vol.4
CHT 平均	0.039	0.121	0.133	0.131
JPT 平均	0.030	0.052	0.109	0.098
CHT 『日語総合教程』	0.054	0.137	0.139	0.185
CHT 『総合日語』	0.024	0.104	0.128	0.076
JPT 『みんな』	0.016	0.069	0.123	0.108
JPT 『まるごと』	0.045	0.035	0.095	0.087

表からわかることを 2 点にまとめる。1 点目は、CHT と JPT の平均に注目すると、第 1 巻から第 4 巻まで、全てにおいて、CHT の提示量が JPT を上回っているということである。RQ1 と同様の結果が確認されたこととなり、CLJ が接触する「A っ B り」型オノマトペの提示量に大きな不足はないことが確認された。

2 点目は、教科書の種類別で見た場合、RQ1 の観察と同様、CHT では『日語総合教程』>『総合日語』という関係が見られることである。少ない側の『総合日語』について言うと、第 1 巻と第 4 巻の調査では、JPT の 2 種よりむしろ少なくなっている。CHT の場合は、教師による教科書の選択によって、学習者が触れられるオノマトペの量が大きく変わる可能性が示唆された。

4.3 RQ3 「本文」セクション内出現量の比較

全体出現量や巻別の出現量から見ると、CHT は JPT より「A っ B り」型オノマトペの提示量が必ずしも少なくないということが確認された。CLJ の誤用の背景を踏まえると、学習者の習得問題と「A っ B り」型オノマトペが教科書内の提示位置に関するかを分析した。

表 7

中日教科書における「A っ B り」型オノマトペのセクション別出現量

	教科書のセクション別 1 ページ当たりのトークン数			
	本文	会話	練習	そのほか
CHT 平均	0.055	0.011	0.031	0.009
JPT 平均	0.020	0.006	0.047	NA
CHT 『日語総合教程』	0.069	0.012	0.041	0.009
CHT 『総合日語』	0.041	0.009	0.022	0.010
JPT 『みんな』	0.016	0.002	0.059	NA
JPT 『まるごと』	0.024	0.011	0.034	NA

表からわかることを 3 点にまとめる。1 点目は、教科書の中でも、最も重要な「本文」セクションにおける CHT と JPT に注目すると、CHT の出現量が JPT を上回っているということである。RQ1 と

RQ2 の観察と同様、CHT の重要な「本文」セクションにおける「A っ B り」型オノマトペの提示量に大きな不足はないことが確認された。

2 点目は、教科書の種類別で見た場合、RQ1 と RQ2 の観察と同様の結果が確認されたこととなり、CHT では『日語総合教程』>『総合日語』という関係が見られることである。少ない側の『総合日語』であっても、「本文」セクション内出現量は JPT より多いことが確認された。

3 点目は、「本文」セクション以外の特徴として、JPT は「練習」セクションで多く出る傾向が示された。この傾向は、JPT が「本文」セクションの量を少なめにし、「練習」セクションのほうを多めにしていることと関係しているかもしれない。ただし、実際の授業で練習部分が省略される場合、学習者が十分に語彙に触れられないリスクも存在する。中日の授業は「本文」中心で、授業中に時間がない場合「練習」セクションは省略されることが多い。そのため、「本文」セクションにより多く「A っ B り」型オノマトペを出したほうが学習者にとってオノマトペに接触する機会が保証されと考えられる。この点から見ると、CHT は、JPT と比べて、「本文」セクション内出現量について大きな問題があるわけではないことが確認された。

4.4 RQ4 高頻度「A っ B り」型オノマトペに対するカバー率の比較

これまでの、トークン数に注目した分析を行ってきた。しかしながら、実際の「A っ B り」型オノマトペの習得に関して言うと、どれだけ多くオノマトペに触れる機会を持つかというだけではなく、どのくらい幅広い「A っ B り」型オノマトペに触れられるかも重要であると言えるだろう。そこで、RQ4 では、「A っ B り」型オノマトペのタイプ数に焦点を絞り、すでに示した書き言葉高頻度「A っ B り」型オノマトペリスト、話し言葉高頻度「A っ B り」型オノマトペリスト、書き言葉・話し言葉を統合した高頻度「A っ B り」型オノマトペリストという 3 つのリストと比較したところ、以下の結果を得た。

表 8

高頻度「A っ B り」型オノマトペに対するカバー率

	比較リスト別のオノマトペカバー率		
	書き言葉	話し言葉	書き言葉・話し言葉
CHT 平均	34%	32%	33%
JPT 平均	25%	23%	23%
CHT 『日語総合教程』	36%	32%	34%
CHT 『総合日語』	32%	32%	32%
JPT 『みんな』	26%	24%	24%
JPT 『まるごと』	24%	22%	22%

表からわかることを 3 点にまとめる。1 点目は、CHT 平均と JPT 平均カバー率に注目すると、CHT のカバー率が JPT を上回っていることである。いずれのリストにおいても、CHT のほうが JPT より高いカバー率を示している。このことから、CHT では JPT に比べてより多くの高頻度「A っ B り」

型オノマトペが取り上げられていると考えられる。

2 点目は、教科書の種類別で見た場合、CHT の 2 種では話し言葉高頻度「A っ B り」型オノマトペリストのカバー率が同じであるが、書き言葉高頻度「A っ B り」型オノマトペリスト、および書き言葉・話し言葉を統合した高頻度「A っ B り」型オノマトペリストでは、『日語総合教程』>『総合日語』という関係が見られることである。

3 点目は、CHT のカバー率が JPT を上回っているものの、どの教科書もリストに示された高頻度「A っ B り」型オノマトペの半分にも満たないカバー率にとどまっている点である。特に、書き言葉・話し言葉を統合した高頻度「A っ B り」型オノマトペリストとの比較では、CHT でも平均 33%、JPT では 23%にすぎず、十分な語彙の網羅には至っていないことが分かる。このことから、教科書内での「A っ B り」型オノマトペのカバー率は依然として限定的であり、学習者が幅広いオノマトペに触れられる機会を確保するためには、補助教材や授業内での補足が必要であると考えられる。さらに、今後の教材開発では、実際のコーパスデータを活用し、より高頻度の語彙をバランスよく取り入れることが求められる。

4.5 RQ5 教科書に掲載される「A っ B り」型オノマトペ

書き言葉・話し言葉を統合した高頻度「A っ B り」型オノマトペリストを参考として、CHT とリスト比較した結果を踏まえて、リスト・教科書の両方に含まれ、継続採用すべきであるもの、リストのみに含まれ、教科書での追加を検討すべきであるもの、教科書のみに含まれ、収録を再検討すべきであるものは、それぞれ以下ようになった。

表 9

書き言葉・話し言葉高頻度「A っ B り」型オノマトペリストとの比較

リスト・教科書の両方に含まれ、継続採用すべき 22 語	リストのみに含まれ、教科書での追加を検討すべき 28 語	教科書のみに含まれ、収録を再検討すべき 4 語
はっきり、しっかり、ゆっくり、 びっくり、あっさり、うっかり、 うっとり、がっかり、こっそり、 さっくり、さっぱり、じっくり、 すっきり、すっきり、すっぱり、 そっくり、たっぷり、どっぷり、 にっこり、ばったり、びったり、 ゆったり	きっちり、しっとり、ざっくり、 ばっちり、がっつり、ぐったり、 びっしり、ぎっしり、がっちり、 しっくり、きっぱり、てっきり、 がっくり、まったり、ほっそり、 どっしり、べったり、めっきり、 おっとり、ばっさり、きっかり、 ごっそり、もっちり、かっちり、 ほっこり、げっそり、びっしより、 ぼっちゃり	ぐっすり、こっそり、 ひっそり、ほっそり

以上の結果を踏まえると、まず、「はっきり」「しっかり」「ゆっくり」「びっくり」「あっさり」といった語に

関しては、教科書が、コーパスの高頻度語彙を適切に取り入れていることが確認された。このような高頻度語彙は、基本的な言語運用能力の習得を支援するうえで極めて有用であるため、今後も継続採用することが妥当であるといえる。

次に、「きっちり」「しっとり」「ざっくり」「ばっちり」「がつつり」といった語に関しては、コーパスで高頻度であるにもかかわらず、教科書で掲載されていないことが明らかになった。これらの語については、学習者がより自然な言語運用能力を習得できるよう、今後、教科書に、新規に追加していく必要があると考えられる。

なお、これらの語彙を追加する場合、用例が必要になるが、この点については、現実の言語使用を記録したコーパスの情報を活用することが有益であると考えられる。下記はコーパスからの実例の一部である。

- (3) これまでの内容は基本的な部分ですから、きっちりとマスターしておかなければなりません。(BCCWJ. PB25_00156)
- (4) この四つの要素がきっちり収まっていれば大抵いいのね。(CEJC.T004_002)
- (5) スプレー式の化粧水のように肌の水分を奪うことなく、しっとりと肌をうるおわせてくれるでしょう。(BCCWJ.PB45_00036)
- (6) トリートメントはカラーケアのほうがしっとりするんですね。(CEJC.K008_004b)
- (7) 手提げ籠をざっくりと包み、スカーフリングで留めた。(BCCWJ.PM31_00651)
- (8) (ものを)やさしくざっくり混ぜ合わせます。(CEJC.K004_011)
- (9) 録音をばっちり取っておきました。(BCCWJ.OY03_02515)
- (10) タイミングがばっちりだよ。(CEJC.K007_015)
- (11) がつつりとカツカレーを食しました。(BCCWJ.OY03_03117)
- (12) だからもうチキンで、がつつり食べようと思って朝減らして。(CEJC.K002_018)

上記の例に示されるように、これらの「A っ B り」型オノマトペは、決して特殊なものではなく、現代日本語において、一般的に広く使用されるものである。こうした語彙が、教科書に追加されることによって、教科書で学ぶ学習者は、「A っ B り」型オノマトペの使用についてよりよく理解することができると考えられる。これは、また、実践的なコミュニケーション能力の向上にも寄与することと期待される。

最後に、教科書のみ収録されている「ぐっすり」「こっそり」「ひっそり」「ほっくり」といった語についてはさらに検討すべきであると考えられる。このデータを日本語母語話者に見せたところ、4語の中で、とくに「ほっくり」については極めて特殊な「A っ B り」型オノマトペであるから、教科書での採用について再検討すべきであるという助言が得られた。また、現行の教材における提示例や解説が、実際のコーパスデータに基づく言語使用状況と整合しているかどうかを、今後の教材改訂に向けてさらに検討する必要がある。コーパスを用いた実例の収集と分析を通じて、これらの語彙の実例の用例や使用頻度、学習者の理解状況を踏まえて、採用方法や提示内容の見直しを検討するこ

とが求められる。

5. まとめ

本研究は、CLJ による「A っ B り」型オノマトペの誤用が多い背景として、CHT に問題があるのではないかという仮説のもと、全体出現量、巻別出現量、「本文」セクション内の出現量、そして高頻度語カバー率、不足語彙の 5 観点から、CHT における「A っ B り」型オノマトペの出現状況を、JPT と比較した。

その結果、まず(1)全体出現量に関しては、事前仮説とは逆に、CHT において、「A っ B り」型オノマトペの提示量がとくに少ないという問題は存在しないことが確認された。次に、(2)巻別の分析では、CHT において、各巻の「A っ B り」型オノマトペ提示量に不足の問題は見受けられなかった。また、(3)「本文」セクション内の出現量の比較では、CHT は「本文」セクションに「A っ B り」型オノマトペの提示量が不足ではないことが確認された。一方で、JPT は「練習」セクションに多く存在していることも明らかとなった。さらに、(4)高頻度「A っ B り」型オノマトペに対するカバー率の比較では、CHT が JPT より高いカバー率を示す一方、いずれの教科書も実際のコーパスに基づく高頻度語リストの半分にもカバーできていないことが確認された。最後、(5)書き言葉・話し言葉を統合した高頻度「A っ B り」型オノマトペリストとの比較から、教科書に継続採用すべきであるもの、新規に追加すべきであるもの、再検討すべきであるものが確認された。

本研究は、中日教科書における「A っ B り」型オノマトペの出現量、教科書内のセクション分布状況、現代日本語コーパスデータに対するカバー率について検討したが、まだいくつかの課題が残されている。1 つ目は、データの不足である。本研究では、中日それぞれの 4 種類の教科書のみを調査したため、データ量が限られている。今後は、より多くの教科書を調査し、データ量を増やすことで、今回の結果が再現可能かどうかを検証することが重要である。2 つ目は、本研究が教科書の分析に焦点を当てた一方で、「A っ B り」型オノマトペの学習者による習得状況についての調査を行っていない点である。この点を踏まえると、教科書の内容だけでなく、学習者の実際の習得状況を分析し、「A っ B り」型オノマトペの習得過程を検討することも重要であると考えられる。

引用文献

- 岡谷英夫(2015).「小学校国語教科書に見るオノマトペと日本語教育」『人工知能学会論文集』
30(1), 257-264.
- 王蕊・金英児(2020).「中国の大学の日本語教科書におけるオノマトペの分析」『일본어문학』88,
77-96.
- 黄慧(2021).「日本語教育語彙表におけるオノマトペ:コーパスを使った調査」『語学研究所論集』
(東京外国語大学語学研究所) 26, 25-46.
- 迫田久美子(2020).「I-JAS 誕生の経緯」迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬(編著)『日本語学習
者コーパス I-JAS 入門:研究・教育にどう使うか』(pp. 2-13). くろしお出版.
- 獅々見真由香(2016).「日本語の会話におけるオノマトペの基本語彙選定-『BTS による多言語
話し言葉コーパス』と『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』を用いて-」『日本語教育』
165, 73-88.
- 陳帥(2015).「現代日本語におけるオノマトペの意味拡張:『CVQCVri』型を対象にして」.名古屋
大学博士論文.
- 三上京子(2007).「日本語教育のための基本オノマトペの選定とその教科書化」『ICU 日本語教
育研究』3, 49-63.
- 守山恵子(2002).「『CVQCVリ』型のオノマトペ」『長崎大学留学生センター紀要』10, 53-71.

資料

- 国立国語研究所作成 『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』
- 国立国語研究所作成 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
- 国立国語研究所作成 『日本語日常会話コーパス』
- 日本語学習辞書支援グループ(2015)「日本語教育語彙表 Ver. 1.0」